

1 題材名

サ行の音をはきはき言おう

2 児童の実態

本児童は、素直で明るく、通級指導教室においても学習や活動に楽しんで取り組んでいる。話すことや人と関わるのが好きで、誰にでも明るく話しかけている。しかし、出来事を説明したり、聞かれたことに答えたりするのは苦手である。

課題として挙げられるのは、入学時の構音検査で、サ行がシャ行に、ツ音がチュ音に、ズ音がジュ音に、ゾ音がジョ音に置換され、正しく発音できないことである。5月から週1時間通級での学習を開始した。初めは、慣れるためにトランポリンや平均台などの運動を取り入れ、活動を通してコミュニケーションを図り、楽しい雰囲気の中で指導を行うようにした。それから構音器官の働きをよくするために、お口の体操を取り入れた。そして、6月に入り「サ」がつく言葉の聞き分け練習を行った。初めのうちは、「サカナ」「シャカナ」など、聞き分けるのが難しい言葉がいくつかあったが、聞く練習を繰り返し、「サ」の音を正しく聞くことができるようになってきた。また、「サ」音が語頭につく言葉、語尾につく言葉、語中につく言葉の順に発音練習を繰り返し、少しずつ正しく発音できるようになってきている。児童は、自分でも正しく発音しようと一生懸命取り組んでいる。日常の会話の中では聞き取りにくいことがよくあり、こちらから何度か聞き返してしまうこともある。

文字の読み書きについては、ひらがなは読めるが文になるとつまることが多く、普段書く文字は形が整わなかったり、筆圧が弱すぎたりする。

3 題材設定の理由

本題材は、課題の一つであるサ行の音を一つ一つはっきりと発音できるようになることがねらいである。自立活動の内容「6 コミュニケーション(2)言語の受容と表出に関すること」が主な活動で、「心理的な安定」や「身体の動き」なども副次的に関連している。発音の課題を改善することにより、はきはき且つスムーズに文章を読めるようになってほしいと考える。また、発音の不明瞭さから友達に関わる意欲が低下しないよう、正しい構音方法を身に付けるとともに、会話の中での自然な発音の定着を図りたい。

そこで、本題材の指導では、構音器官の働きを高める訓練や発声練習をはじめ、課題音の聞き分け、単語や文章の読みを練習する。また、構音器官の働きを高めるために、体ほぐしの運動や目の運動を行い、身体の緊張を取り除きリラックスした状態で構音練習ができるようにしたいと考える。本児童は、手足をバランスよく動かすことが苦手であるので、棒体操を取り入れることでバランス感覚を養うとともに、楽しい雰囲気の中で学習できるようにしていきたい。また、PCソフトのビジョントレーニングでは、眼球運動や文字を見て声を出し、画面上を指さすなどのトレーニングを行う。児童の見る力や目と手の協応動作を高めていきたい。漢字の学習では、デジタル教科書のなぞり書きを活用し、形や書き順を確認し、文字の形を整えて書くことにつなげていきたい。

また、構音練習と合わせて、言葉遊びをすることで語彙を増やし、言葉を通じたコミュニケーションをすることで、在籍学級での学習や友達とのよりよいコミュニケーションへとつなげてほしい。

4 題材の目標

サ行の音を明瞭に発音し、文章や会話の中で正しく言うことができる。

5 指導計画

- サ行の音をはきはき言おう ……………全20時間
- 「サ」の発音 …………… 5時間
- 「ス」の発音 …………… 5時間(本時6/20)
- 「セ」の発音 …………… 4時間
- 「ソ」の発音 …………… 4時間
- サ行の音のまとめ …………… 2時間

6 本時の目標

- ・構音器官の働きを高める活動に、意欲的に取り組むことができるようにする。
- ・「ス」音の構音を意識して、発音できるようにする。

7 本時の展開

| 時間 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 学習活動における 具体の評価規準 |
|----|------------------------------|--|---------------------|
| 導入 | 1 学習内容やめあてを確認する。 | ・学習の流れを示すことにより、めあてに向かって見通しをもてるようにする。 | |
| | 2 体ほぐしの運動や目の運動をする。 ・棒体操 | ・体や手指の運動を取り入れ、構音器官の働きを高めることにつなげる。楽しい雰囲気を作り、児童がリラックスして学習できるようにする。 ・「背筋を伸ばす」「腕を耳につける」などの各動きで気をつけることを声かけしながら進める。 | |
| | ・ビジョントレーニング | ・スライドに書かれているひらがなを見て、目で目的のものを追う力を高める。しっかりと目が動いているか確認する。 | |
| | | 「ス」を きを つけて いおう。 | |
| 展開 | 3 構音器官の働きを高める訓練を行う。 ・口の体操 | ・舌の脱力や上下左右への随意運動を中心に行い、構音器官の働きを高めることにつなげる。 ・鏡をよく見て、自分の舌や唇、ほっぺたの動きを自覚できるよう声をかける。 | |

| | | | |
|----|---------------------------------|---|---|
| | | <ul style="list-style-type: none"> 舌の脱力ができるよう「ホットケーキの形のベロ」のような分かりやすい言葉で指示する。 できた動きにシールをはり、称賛する。 | |
| 4 | 「ス」音の正誤弁別をする。 ・聞き分けクイズ | <ul style="list-style-type: none"> 絵カードを見ながら、正しい「ス」音と間違った「シュ」音を聞くことにより、音の違いに気づけるようにする。正しいかどうかを○×で判別する。 | <ul style="list-style-type: none"> 語頭、語尾、語中に関わらず、正しく聞き分けることができる。(全10問中8問以上で達成) |
| 5 | 「ス」音の構音練習をする。 ・単音の連続音の練習 | <ul style="list-style-type: none"> ストローを使い舌の真ん中から息を出す感覚をつかむ。sの息を出し、「ス」音の構音練習をする。 「ス」音が出ているか確かめる。「ス」「ス」「ス」「スー」 | <ul style="list-style-type: none"> 舌を脱力させて、舌の真ん中から息を出そうとしている。 |
| 6 | 学級の課題 | | |
| | ・漢字 | ・デジタル教科書を使用し、指で書き順を確認する。 | |
| 7 | ことば集め魚つり | <ul style="list-style-type: none"> 「スのつくことば」や「どうぶつの名前」などのことばを集めることを通して、語彙を豊かにする。 意識して正しい「ス」音が発音できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 集めた言葉を正しく読むことができる。(全体の80%以上正しく読めれば達成) |
| 終末 | 8 今日のリターンをする。 | ・頑張りをお伝え、話すことへの意欲を高める。 | |

8 評価

- ・構音機能の働きを高める活動が、進んでできたか。
- ・構音を意識して、「ス」音を出そうとしたか。